

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	富山市立水橋中部小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	1	2	1	1	1	10	15
児童数	43	45	31	42	32	30	3	226	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付け、豊かに自己表現する子供の育成
～個に応じたきめ細かな指導法の工夫・改善～

2. 研究内容と方法

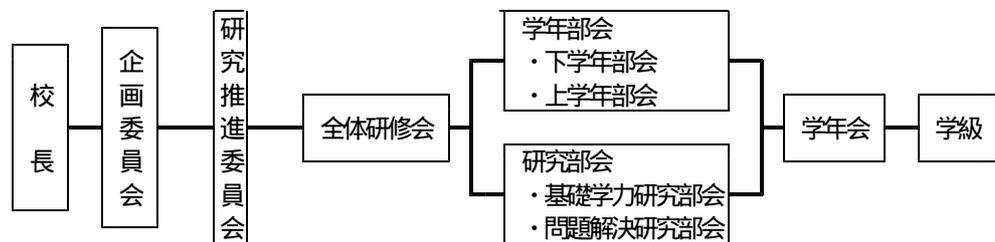
(1) 実施学年・教科

- ・ 3～6年・算数科
児童の理解・技能に差が出やすい教科であるため
- ・ 1～2年・生活科
学力向上について教科の枠を広げて、幅広い視野から取り組むため
- ・ 4～6年・理科
教員の得意分野を生かし、一部教科担任制に取り組むため

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	テーマ 個に応じたきめ細かな指導法の工夫・改善 研究の見通し ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫 ・ 基礎学力の確かな定着に向けた取り組み 研究の内容・方法 ・ 少人数指導やTTによる学習展開の工夫 ・ 基礎学力の確かな定着のための工夫 ・ 評価計画の作成とそれを生かした指導方法の工夫
	テーマ 個に応じたきめ細かな指導法の工夫・改善 研究の見通し ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の改善 ・ 基礎学力を基に意欲的に追究する学習過程の工夫 研究の内容・方法 ・ 少人数指導やTTによる学習展開の定着 ・ 学力向上についての検証 ・ 評価を生かした授業の推進

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

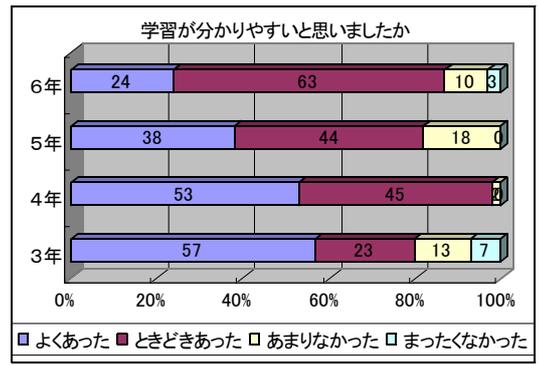
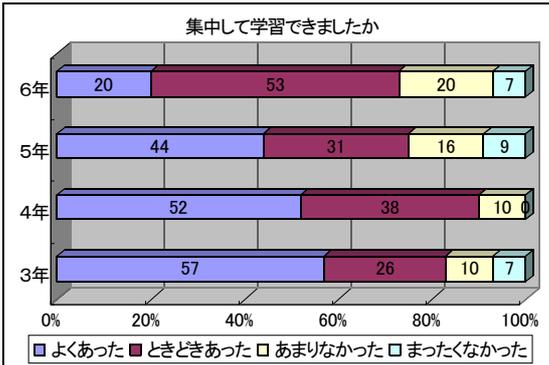
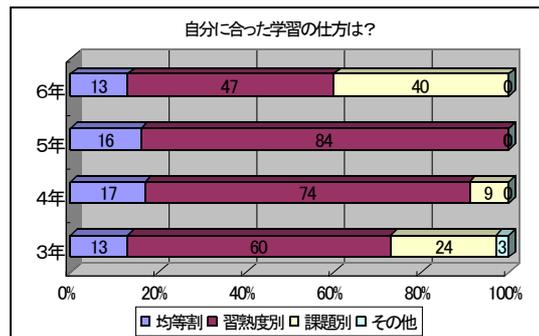
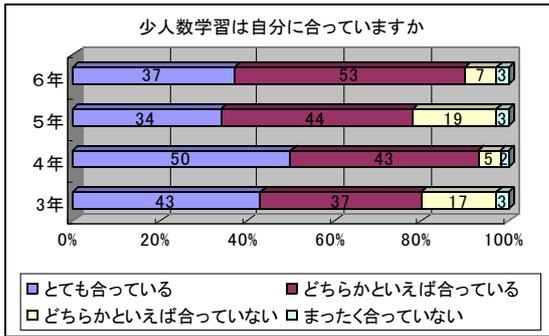
1. 研究の成果

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫

(1) 少人数指導による学習展開

3年生以上の算数科では、学習展開に応じて均等割、課題別、習熟度別にグループを編成して少人数指導を進めたことにより、個に応じた指導ができ、一人一人が生き生きと活動しながら基礎・基本の定着を図ることができた。

少人数指導に関する児童のアンケート結果より



少人数指導は、多くの子供たちにとって「自分に合っている」と感じる事ができ、「分かりやすい学習」や「集中できる学習」につながっている。これは、子供の理解力や習熟度を高めるのに効果があったと考えられる。指導形態は、習熟度別が合うという子供が多いが、均等割、課題別など学習形態に変化をもたせることが大切である。

(2) 2クラス編製の学年でチームティーチングの推進

1、2年生の生活科

話し合いではT1・T2で役割分担して、子供の表情やつぶやきも大切にしながら話し合いを進めたり、課題別グループを作って活動を細かく見取り、意欲を引き出すよう支援したりした。

全単元のTTは初年度ということで具体的な子供の姿を基に、生活科で育てたい力や評価の観点、TTとしての取り組み方を年間計画にまとめた。

4年生の総合的な学習の時間

校区を流れる白岩川を対象に活動を進めたが、TTにより課題別グループに対応することで、主体的な体験・調査活動に取り組むことができた。

(3) 教師の得意分野を生かした学習展開

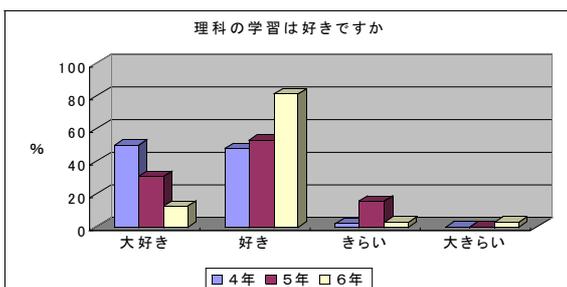
5、6年生間で音楽科・体育科の交換授業

4～6年生の理科を教務主任が担当

3、4、6年生の書写を教頭が担当

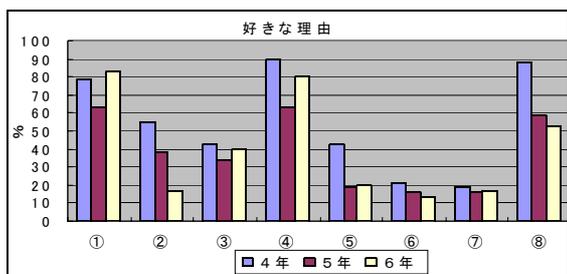
教師の専門性を生かして教科指導を一部分担し、教材研究を綿密に行いながら指導に当たったことは、授業内容の充実とともに学習意欲の向上につながった。

<理科学習に関する児童のアンケートより(平成15年12月実施)>



理科学習が好きな理由として、実験・観察を通して自分で調べ、いろいろ発見できることを挙げる子供が多い。

子供は苦労しながらも自分なりの発見があったりきまりを見つけたりすると大きな成就感を味わい、次の学習意欲が膨らむ。理科学習が目指す主体的な問題解決の能力につながると考える。



実験や観察があるから
理科に興味があるから
自分で調べていけるから
いろいろ発見できるから
生活に役立つから
話し合いがあるから
学習したことをノートに書くから
いろいろな実験用具が使えるから

基礎学力の確かな定着に向けた取り組み
朝のさわやかタイムの取り組み (15分間)

- ・読書タイム...読書好きな子供の増加 落ち着いた雰囲気での1日のスタート
- ・学習タイム...火曜日は漢字練習 木曜日は計算練習

支援内容や工夫点	これまでの成果	問題点	担任の満足度(アンケートより) %
<ul style="list-style-type: none"> ・能力に応じて何枚でも取り組めるよう問題プリントを準備する。 ・プリントはファイルにして残し学習の足跡が分かるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字や計算の定着度がよくなってきている。 ・集中して学習に取り組む習慣が身に付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差や能力差の開きに対する個別指導や問題内容の工夫などの支援が必要である。 	

2. 今後の課題

- (1) 少人数指導においてコースごとに活用する教材の準備が大切だが、子供の主体性や創造性が引き出せるような教材の開発や工夫が必要である。
- (2) 補充的な学習を必要とする子供のための、学習の場の工夫と教材開発が必要である。
- (3) 自分の考えを他とのかわりの中で練り上げていく指導方法や評価の工夫を進める必要がある。
- (4) 個に応じた学習指導や評価の工夫を他教科や総合的な学習の時間等にも広げていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取り組み

- 1 県小教研学力調査結果の分析
 - 国語、社会、算数、理科の4教科について観点別に学年の実態を考察し、指導法の工夫・改善に努める。(4月実施)
 - 2 県教委作成のチャレンジテストによる分析
 - 漢字と計算の習熟度について、学年ごとに到達度や問題の正答率を調べ、基礎学力の変容をとらえる。(1~2月実施)
 - 3 学校生活に関する児童アンケートによる分析
 - 好きな教科や学校での過ごし方などについて、児童のアンケート結果をもとに、次年度の教育計画の参考にする。(2月実施)
- フロンティアスクールとしての研究成果の普及
- 1 公開授業 平成16年10月の予定
 - 2 学校便りによる保護者や地域への普及
 - 3 ホームページにて取り組み事例を掲載予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 v 15年度からの新規校 v 14年度からの継続校
- 【学校規模】 v 6学級以下 v 7~12学級
- v 13~18学級 v 19~24学級 v 25学級以上
- 【指導体制】 v 少人数指導 v T・Tによる指導
- v 一部教科担任制 v その他
- 【研究教科】 v 国語 v 社会 v 算数 v 理科
- v 生活 v 音楽 v 図画工作 v 家庭
- v 体育 v その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 v 有 v 無